



SEAFOOD LEGACY
designing seafood sustainability in Japan, together

水産物 サステナブル 調達改善 支援サービス

企業の持続的成長、SDGs達成に導く
具体的取り組み

Seafood Legacy Co., Ltd.

Sustainable Seafood Procurement
Support Service Pamphlet

株式会社シーフードレガシー

シーフードレガシーは、社会・経済・環境におけるサステナビリティを念頭に、海と人をつなぐ象徴としての水産物（シーフード）を豊かな状態で未来世代に継ぐ（レガシー）ことを目指す、ソーシャル・ベンチャーです。世界を網羅する幅広いネットワークや専門知識を活かし、国内外の漁業者、水産企業、NGO、政府等と協働して、日本の水産業に適した解決策を描きます。

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-14-9 デュープレックス銀座タワー 8/14 201

03-6884-6496

<http://seafoodlegacy.com>



Toward
2030



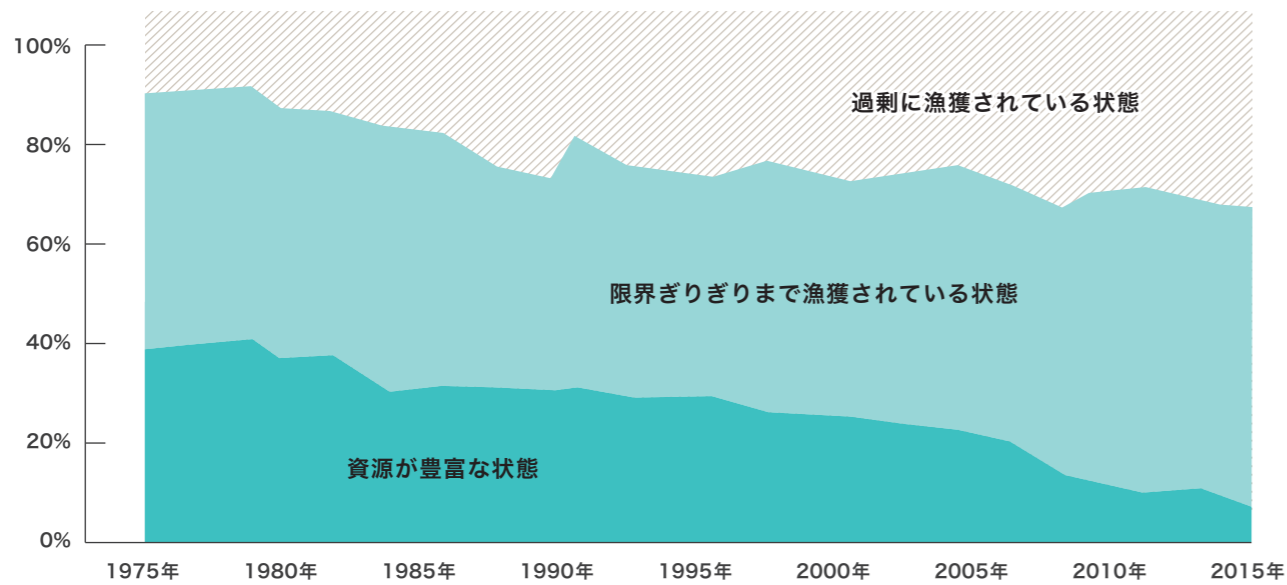
「水産大国」日本の衰退

世界の天然漁業資源は、2015年時点で約30%が過剰漁獲、約60%はその一步手前¹⁾の状態です。日本の水産資源状況を見ても、主要な漁業資源水準の約35%が“低位”、約49%が“中位”²⁾となっています。水産業の成長率を予測する漁業生産量成長率は、今後約10年は養殖業の成長が天然漁獲生産量をカバーする形で世界的に増加すると見られていますが、日本に関してはそれすら及ばず大幅なマイナス成長が予測されています¹⁾。これは、従来通りのやり方を続けていけば、世界との競争に負けるだけでなく、日本の水産業が衰退の一途を辿ることを示唆しています。

¹⁾ The State of World Fisheries and Aquaculture (FAO, 2018)

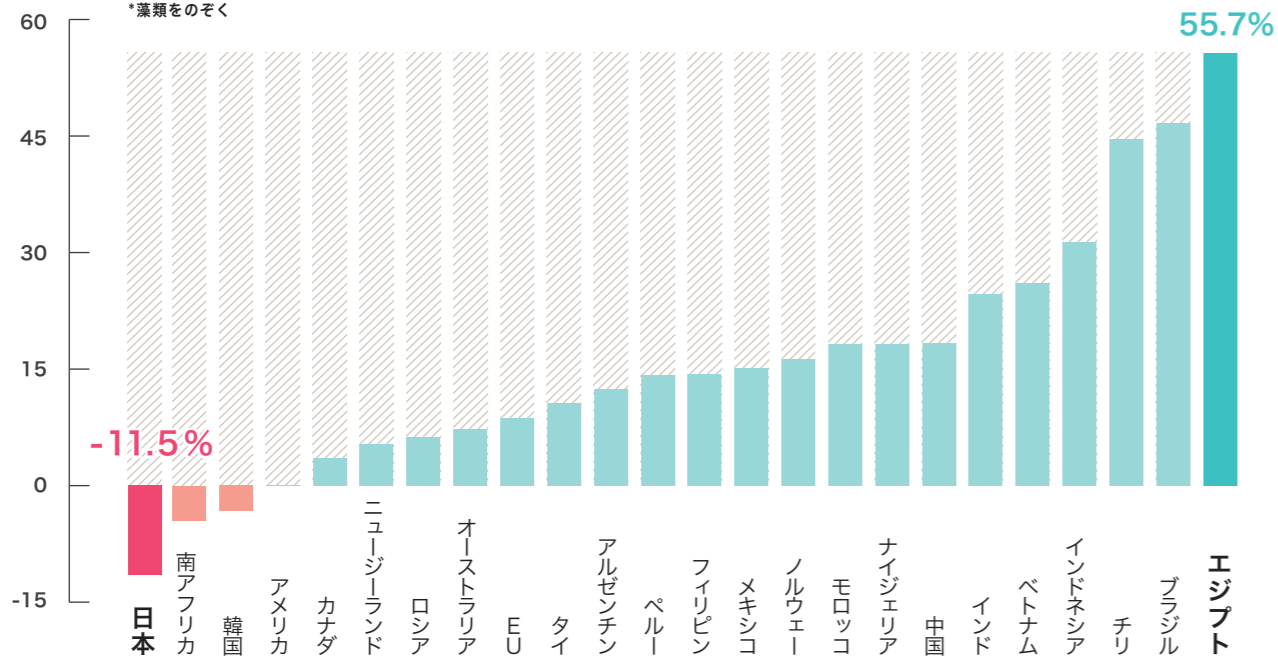
²⁾ 平成30年度水産白書（水産庁, 2019）

世界の水産資源状況（1974 - 2015年） The State of World Fisheries and Aquaculture (FAO, 2018) Table 23 を改変



世界の漁業生産量予測成長率（2016 - 2030年） The State of World Fisheries and Aquaculture (FAO, 2018) Table 22 を基に制作

* 藻類をのぞく



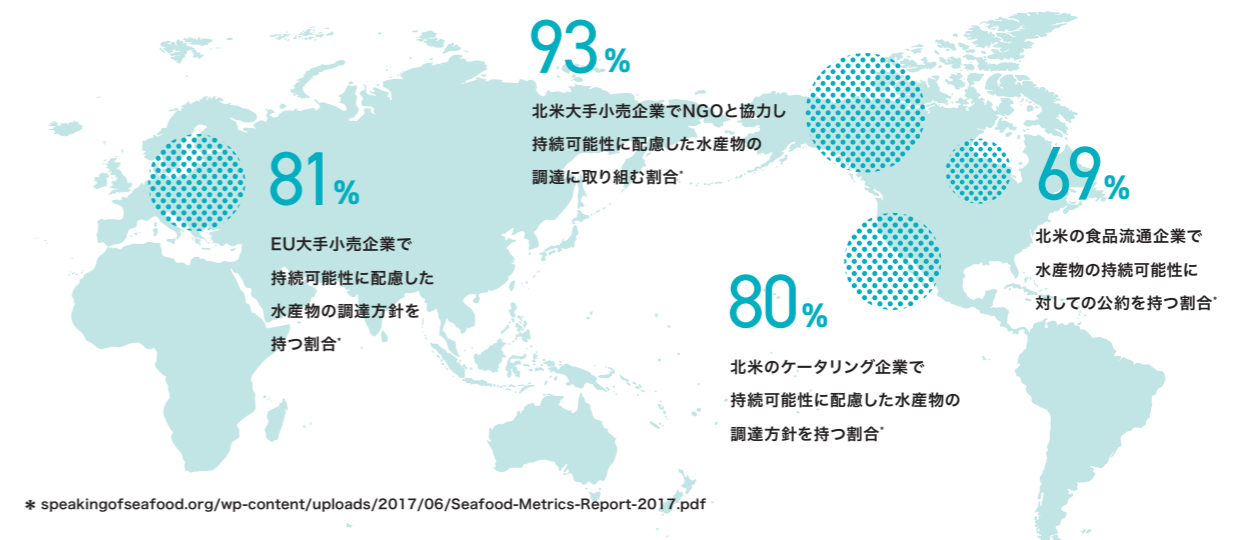
水産業に迫る様々な課題

- 危機的状況の日本において、世界中から水産物を調達する大手量販店の水産売り場でさえ、軒並み赤字続きです。薄利多売に一層の拍車がかかり、未来世代から水産物を更に奪うという悪循環が起きています。
- 流通上の無理なコストダウンは、違法・無報告・無規制（IUU）漁業や、人身売買や奴隷労働などの国際的な社会問題の原因の一つとされています。これらの諸問題に由来する水産資源が日本で流通することは、水産資源の持続性や人権を脅かすだけでなく、責任ある漁業を営む生産者や流通企業にとって不公平な市場を生み出しています。
- 世界人口の急増に伴い、タンパク源の需要も増加します。陸での生産に限りがある中、水産資源の争奪戦も国際的に益々激化していきとされています。これまで水産物消費量の約半分を輸入に頼ってきた日本の家庭の食卓から魚が消える可能性が高まっています。
- 国内の沿岸漁業に目をやると、漁業が儲からず、漁業従事者数が激減し、地域の過疎化が進行しています。日本の水産業やそれを基盤とする地域社会全体が崩壊の危機にあります。

解決策と成り得るサステナブル・シーフード

- サステナブル・シーフードとは、海の生物の育成に必要な環境を保護し、再生産のペースを守りながら漁獲・養殖された水産物のことです。
- EU及びアメリカでは約15年前にサステナブル・シーフードの促進が始まり、今ではサステナビリティを考慮した水産物の調達方針を持つ大手小売企業の割合が全体の80%を超えます。

日本でも企業の原材料調達の責任が問われる時代です。企業のSDGs達成への取組が主流化し、ESG投資家が海洋環境問題に注目し始めています。さらに、五輪開催を翌年に控える東京に国際NGOやメディアの関心が集まるいま、シーフードレガシーは国内の水産関連企業を対象にサステナブル・シーフード調達の実現をサポートしています。



* speakingofseafood.org/wp-content/uploads/2017/06/Seafood-Metrics-Report-2017.pdf

調達改善の3つのポイント

サステナブルな水産物	深刻な問題のある水産物
------------	-------------

- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● GSSI 認定認証水産物 ● 資源管理の有効性が第三者に担保された漁業により生産される水産物 | <ul style="list-style-type: none"> ● FIP/AIP | <ul style="list-style-type: none"> ● 絶滅危惧種、乱獲種、IUU漁業や人権侵害などに関与している可能性のある水産物 |
|---|---|--|

Point: 01 「サステナブルな水産物」を調達する

サステナブルかどうかを判断するわかりやすいツールの1つが認証エコラベルです。例えば持続可能な漁業に対する MSC 認証、責任ある養殖に対する ASC 認証があり、世界で広く認知されています。他にも、GAA (Global Aquaculture Alliance) の BAP 認証や、ASMI (アラスカシーフードマーケティング協会) の RFM (責任ある漁業管理) 認証プログラムなどが知られています。これらの認証エコラベルは、GSSI (Global Sustainable Seafood Initiative) の認定を受けており、国際的に信用性が高いものとなっています。



Point: 02 「サステナブルな水産物」を増やす

サステナブルになっていく過程、つまり、サステナブルな魚を増やすことも大切です。MSC 認証や ASC 認証を取得できるレベルにまで漁業・養殖業を改善していくための FIP/AIP (漁業/養殖漁業改善プロジェクト) を、企業が購買や資金提供を通して支援する、プロアクティブな協働モデルが近年注目を集めています。

Point: 03 「深刻な問題のある水産物」を避ける

過剰漁業や IUU 漁業により漁獲された水産物は推奨されません。環境面以外に、人権侵害など社会面でも悪影響が及ぼされていないかに注意する必要があります。

担当者の悩み

自分たちが販売している魚種の持続可能性はどうなっているのだろうか？



SDGs 達成の取り組みを広げていきたいけれど、海の豊かさを守る取り組みとして、なにをしたら良いの？



株主や投資家からもサステナビリティに対する要望が増えてきているので、その期待に応える活動を推進していきたい



調達を改善すると・・・

- 水産ビジネス
 - 商品やサービスの差別化・付加価値化
 - 水産物原料の長期的な安定調達・安定供給
 - 自社サプライチェーンの透明性・マネジメントの向上
 - サプライヤー企業のビジネスサステナビリティの向上
- CSR・ESG 経営
 - 企業活動が与える環境や生物多様性に対する影響の最小限化
 - サプライチェーンにおける人権問題や IUU 漁業に由来するリスクの回避
 - 水産業を基盤とする地域社会の復興への貢献
 - ESG 投資家からの関心が集まることによる新たな投資機会の増加
 - 多角的な SDGs 達成への貢献による企業の社会価値や社内意識の向上



水産物サステナブル 調達支援サービスの 流れ

1. 水産物調達の現状把握 (ベースラインチェック)

国際基準を用いて、現在調達している水産物のサステナビリティ・アセスメントを行います。「深刻な問題のある水産物」「サステナブルな水産物」「その間の水産物」に分類します。水産物調達の現状を把握することで、調達方針や調達改善計画を作成するための基礎を築きます。

水産物調達アセスメントに必要な基本情報：
対象商品の原料水産物の魚種、漁法、産地、天然/養殖、他

日頃から取り扱う魚介類の資源状況や持続可能性がここまで低いとは思いませんでした。持続可能な水産物の調達は企業の将来にも影響することを改めて実感しました。



目安期間：
基本情報が揃ってから概ね

2ヶ月

2. 調達目標 & 調達改善計画の作成 (ゴール & ロードマップ)

水産物調達アセスメントの結果を見ながら、国内外の事例を参考に複数のシナリオを立て、日本で実現可能な調達目標(ゴール)と、御社の強みを活かした調達改善計画(ロードマップ)を作成します。同時に、ステークホルダーや自社社員等を対象とした勉強会を開催し、イニシアチブを周知させます。

調達目標の例：
〇年までに△の水産物の◇%をサステナブルにする

グローバルの基準を組み込みながら、自社の強みをより引き立てることができました。改めて自社のバリュープロポジションを見直す機会にもなり、各部署との団結力が強まりました。



目安期間：

2-4ヶ月

3. 調達目標 (パブリ

調達目標の
やサプライヤ
者の需要が
調達方針の
サプライヤー
セージであり、
上や需要喚
与します。

シーフードレガシ
サステナブルシー
徹的イベントであ
ブルシーフード・
するほか、毎月ビジ
者ミーティング、メ
の関連イベントを

標の発表 ッシュ)

達成には生産者
一の協力と、消費
不可欠です。
発表は生産者や
への強力なメッ
消費者の意識向
起にも大きく寄
与します。

ーは、日本における、
フードムーブメントの象
るTSSS(東京サステナ
シンポジウム)を主催
ネットワークショップ、生産
ディアセミナーなど数々
開催しております。

孫の代まで
ほしい。その
続的に資源
できる漁業
要で、その努
ットが仕入れ
れることで、
変わると思い

魚があっ
ためには、永
の水揚げが
の実現が必
力をマーケ
で支えてく
浜は生まれ
ます。



目安期間： 要相談

4. 調達改善計画の実施 (インプレメンテーション)

お取引のある生産者やサプライヤーに「深刻な問題のある水産物」の生産・物流を避け、「サステナブルな水産物」の生産・物流の増加を働きかけ、その改善を支援。並行して、必要に応じ「深刻な問題のある水産物」の代替品を生産物流する業者や、サステナブルな水産物を生産・物流する業者をご紹介します。

お客様が調達方針と目標をプレスリリースで発表したことで、自社のサプライチェーンの方針も180°変わりました。供給体制を整えることが急務ですが、商品提案力にもより新しい強みができました。



目安期間： 要相談

5. 調達改善の進捗確認 (プログレスチェック)

国際基準を用いて、調達する水産物のサステナビリティ・アセスメントを行い、調達改善の進捗を確認します。進捗に問題がある場合は、必要に応じて第三者専門機関を交え、調達目標や調達改善計画の見直しを行います。アセスメントの結果は、CSR報告書等でもご利用いただけます。

進捗報告や実際の取り組みをCSRレポートや統合レポートでご紹介した結果、ステークホルダーのみなさまから様々なお言葉や評価をいただくことができました。



目安期間：
基本情報が揃ってから概ね

2ヶ月